

## 第5回運営推進会議

令和3年9月27日

グループホーム軽井沢

### 〈議題〉

- ・近状活動報告
- ・介護ケア事例研究について
- ・質疑応答

### 〈参加者〉

入居者ご家族 様	欠席
地域住民 様	欠席
松山市介護保険課 様	欠席
地域包括西 様	欠席
松山市社会福祉協議会 様	欠席
民生委員 様	欠席
グループホーム軽井沢職員	出席

コロナ対策の為文書開催とする。

1 入居(所)者の状況( 9月 18 日)		(男性 4 人、女性 14 人)										
内 訳	要支援2	0人	要介護1	4人	要介護2	1人	要介護3	5人	要介護4	2人	要介護5	6人
8 月	入居(所)	0 人	(特記事項)									
	退居(所)	1 人										
9 月	入居(所)	1 人										
	退居(所)	0 人										
2 主な活動、出来事												
8 月 2 日	松山市介護保険課、地域包括へ文書開催の為、運営推進会議報告書を郵送する。											
8 月 4 日	コロナ対策で面会禁止決定する											
8 月 6 日	さくらんぼユニット会 利用者のケアプラン、ケア内容、次回運推テーマについて話し合う											
8 月 13 日	コロナ感染症対策の動画閲覧を職員へ周知する											
8 月 31 日	感染症アンケート記入職員全員											
8 月 11 日	ぽんかんユニット会 ヒヤリ、アクシデントの勉強会と利用者のケアについて話し合う											
9 月 8 日	両ユニット会 感染症対策勉強会行う。両ユニット会を別々に行う(利用者のケアや感染症につ											
9 月 14 日	外部評価											
9 月 23 日	こどもの国園児敬老のお祝いしに来訪。 両ユニット合同で敬老会開催。											
3 次期の主な活動予定												
10 月 日	いもたき、ミニゲーム大会開催											
月 日												
月 日												
月 日												
月 日												
4 特記事項、その他												
①												
②												
③												
④												

あ

ね

# 介護ケア事例研究

## 1. 基本情報

利用者名 T氏	年齢 56	性別 男	要介護度 1
認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度	

## 2. 本人の状況

日常生活は自立。一日の流れを理解している。身の回りのことも自分で行える。どちらかと言えば静かでおとなしいが、こだわっている物事への執着心は異常に強くプライドは高い。健康体であるがアトピーの皮膚疾患がある。現在も手指の の改善がみられないままである。

## 3. 本人のニーズ・課題

- 1.手指の が治り、きれいな状態が維持できていく。
- 2.1の為に、本人が私の現在の状態を受け入れることができる。
- 3.1の為に、本人が自ら完治に向けて取り組むことができる。
- 4.1の為に、こちらの話しやアドバイスを聴く事ができる。

## 4. ケアプラン

### 長期目標

周りの人の意見やアドバイスを聴き入れ、状況に合わせて生活が送れる。

### 短期目標

手指の の改善に向けて、日々薬をきちんと塗っていける

### ケア内容

- 1.職員によって の確認、チェックを行う。
- 2.手指軟膏本人持ちのため、塗ったかどうかの確認の声掛けしていく。(手洗い、入浴後の塗布促すが本人が「手を洗うので塗っても同じ」等と言われる。・居室への訪室を嫌われるため、1対1で納得できる場面作りが難しい。・職員が塗布することも嫌われている。)
- 3.日々の、服薬時間に合わせて軟膏の塗布を行っていく。

## 介護ケア事例研究

### 5. 実施内容

<p>〈かかわり〉</p> <p>手の平、指のただれの完治がみられず本人の治そうという前向きな気持ちもみられないままである。6月/ただれが手のひら、指の間まで広がっているのを発見。本人へ確認「箸が持ちにくい。指が広げられない」との弁。職員から、ただれの確認と薬の塗布、声掛けをこまめに続けていくべきと考えたが、本人の性格上、拒否がでると考え入浴後などに薬を塗ることをすすめる声掛けをおこなった。8月/奥様と外出。その際、汚れた寝具の交換、洗濯させてくれない事を伝え奥様から本人へ汚れた寝具の交換をするようお願いした。奥様と外出した日は交換できたが、その後、入浴の日にはシーツ交換の声掛けを続けてみたが交換には応じなかった。9月/主治医から治す為に清潔が大事だと話してもらった。次の日、手の平の確認すると出血しており「歯磨きが辛い。痛い」との弁。本人は「寝る前に塗っている」というが、シーツに掻き寄った血痕跡がついている。そのシーツも交換には応じてくれなかった。</p>	<p>〈本人の様子〉</p> <p>6月/職員が直に手を取り確かめることへの拒否はない。薬をたっぷり塗布したところ、「これだけ塗れば2～3日で治りますね」と「続けないと治らない」と伝えたところ笑っていた。声掛けには応じられ手の平をみせてくれる。薬は塗っていると言うが執拗な手洗いのため薬も流れてしまう。塗り直しの様子はみられない。8月/奥様が持参した新しい寝具を見「僕が自分で変えます」と言うが、「外出を楽しんでもらうために職員でします」と話す。奥様の説得もあり渋々了解された。汚れた寝具はおくさまが持ち帰られ、施設で処分したものもある。いつも、無表情で(不満顔)で「かまいません」とそっぽを向いてしまう。9月/本人へ主治医の話はどうだったか尋ねると無言。薬は塗っているか問うと「自分で塗っているので大丈夫です」との弁。相変わらず手を洗い過ぎのため塗っても一向に良くならないでいる。</p>
--	---

### 6. 考察

<p>今のままだと、ただれの完治まで遠い話で終わりそうである。薬の塗布に関しては本人が「僕は自分で塗っていますから」と言われる。職員が塗ることに拒否はないが、その都度、洗い流されるため効果が無い状態である。治る為に必要な、清潔関連の事や塗り薬の必要性を本人と話してきたが、他人事のような感じが見受けられた。主治医の説明にも、奥様の説得にも受け入れが難しい様子である。痛い、辛いと言われるので、手の平が広げられなくなる前に、何とか少しでも良くなるよう考えているところである。性格の難しさもあるが、良くなるために何をすべきか1対1で向き合っていくことにより本人の納得を得られれば解決策が見いだされるような気がしている。</p>
---

# 介護ケア事例研究

## 1. 基本情報

利用者名 M氏	年齢 80歳代	性別 男	要介護度	3
認知症高齢者の日常生活自立度		障害高齢者の日常生活自立度		

## 2. ADLの状況

食事は自力摂取(細かいキザミ)、トイレや入浴等は介助が必要。  
尿、便失禁が多く、汚れている事に気付かない。まれに気付いて、手できれいにしようとする行為がある。  
歩行は独歩だが、R3/6月にキャスター付きの椅子を歩行、立ち上がりの支えにしてしまわれ、転倒。1か月程で今まで通り歩行が可能となる。  
ふらつく事があり不安定の為、手引きや付き添いが必要。  
ソファに座っていたり、他の利用者様の部屋へ入ろうとされたり、施設内をうろうろされることが多くなった。  
自ら話し掛ける事はあまりないが、声を掛けると答えられる。

## 3. 本人の課題

- ・ふらつきがある
- ・便失禁の際は、気持ちが変わくて汚物を触ってしまわれることがある。

## 4. ケアプラン

### 長期目標

自立歩行が維持できる  
清潔を保つことができる

### 短期目標

ふらつきを軽減するために、下肢の筋力を少しでも上げる事が出来る  
自身の汚物を触らないようになる

### ケア内容

- ・施設内での歩行訓練、足の上げ下げ運動
- ・レクリエーションへの参加の促し
- ・こまめなトイレ誘導を行い、便失禁や尿失禁を早期に対応出来るようにする。

# 介護ケア事例研究

## 5. 実施内容

〈かかわり〉	〈本人の様子〉
--------	---------

## 6. 考察

--

## 第5回 グループホーム運営推進会議まとめ

### 看取りについての意見

- ・ 本人の意思が重要であるが、聴き取りが難しい人や身寄りのない人はどうするのか。
- ・ 施設で看取る場合、施設で出来る事出来ない事の話しを、本人や家族に説明し納得してもらおう。
- ・ 本人の状態を常に把握し、痛みや苦痛がないようケアしていく。
- ・ 意志の確認が取れない人がいた場合、周りの人々が、その人にとって、より良い最後を迎えられるよう話しあう。
- ・ 大切な家族を亡くした後の家族に対してもケアしていくことも大事。
- ・ 看取りをした職員にもケアが必要である。
- ・ 日々の何気ない会話の中から、本人がどんな考えを持っているのか引き出しておく。